

津波で子ども犠牲、宮城県石巻市の大川小



東日本大震災(しんさい)で子どもと先生の計84人が津波(つなみ)にのまれ、犠牲(ぎせい)となった宮城県石巻市の旧大川小学校では、遺族の父親らが語り部(かたりべ)活動をしていま

す。昨秋には裁判で、子どもが逃(に)げおくれた責任は県や市、校長らにあることが認められました。2011年3月11日の震災から9年。語り部は「救えた命」について訴(うった)え続けま

| | |
|---------|--|
| 2011年3月 | 東日本大震災発生、大津波が来る 児童74人、教員10人が死亡・行方不明 |
| 13年2月 | 大川小学校事故検証委員会発足 |
| 14年3月 | 同委員会が最終報告書 遺族が宮城県と石巻市を訴える |
| 16年3月 | 市が大川小校舎を震災遺構として保存決定 |
| 10月 | 仙台地裁が遺族勝訴判決 「大川伝承の会」の語り部活動スタート |
| 18年4月 | 仙台高裁が遺族勝訴判決、県・市の責任明確化 |
| 19年10月 | 最高裁が県・市の上告認めず |
| 20年4月 | 市が大川小の保存事業に着手予定 |

「なぜ逃げなかった」

「息子(むすこ)は当時小学6年生で、生きていれば21歳(さい)です。遺族の父親5人で作る「大川伝承の会」の佐藤和隆さん(53)は、2月25日、津波で傷ついた校舎の

前で、三男、雄樹君のことを約20人の見学者に話しました。あの日、午後2時46分に地震が起きた直後、103人の子とも

は、雄樹君は「ここにいたらみな死んでしまう。山に避難(ひな)んしよう」と訴えましたが、先生に聞いてもらえず、泣いていたそうです。



▽歩いて1分の裏山和隆さんは、子どもでも1分で着く裏山の

最後に残った子ども78人は、午後3時35分ごろ南西約200メートルある新北大橋付近に向けて出発し、津波に遭(あ)いました。助かった4人を除く74人と、10人の先生が犠牲になりました。

「みな救えた命津波が来るまで約50分間、何があったのか。遺族は解明を求めましたが、市教育委員会は生き残った子らの証言メモを捨(す)て、第三者検証委員会でも事実は明らかになりませんでした。遺族のうち和隆さん

語り継ぐ父親たち

宮城県石巻市

ら19家族は14年3月、県と市を訴えました。19年10月、最高裁で確定した判決は、校長や教頭らが事前に避難場を具体的に決めず、安全を守る義務に違反(いはん)したとし、県と市に賠償(ばいしょう)を命(めい)じました。市は大川小を震災遺構(いんさいいこう)とした。震災当時の児童数は108人で、8・6階の津波を受けた。確定した仙台高裁判決は、学校や教育委員会には安全確保のより重い義務があるとし、学校防災の在り方を大きく変えた。2017年度末で閉校し、今後は震災遺構として役割を果たす。

津波の時の大川小学校

北上川、堤防、津波の流れ、移動経路、大川小、校庭、登り口、裏山、先生と子どもたちが向かった高台

「小さな命の意味を考える会」の資料を基に作成

週刊こども新報

ワイド